令和6年度第2回和光市児童発達支援施策推進協議会 会議録（要録）

- 【日 時】 令和6年11月20日（水）15時00分～16時20分
【場 所】 和光市役所3階 庁議室
【出席者】 すこやかかわこう およこサポートクリニック 院長 勝又 大助（会長）
児童発達支援センターやまぼうしセンター長 河西 広城
子どもあんしん部次長兼子ども家庭支援課長 平川 京子
障害福祉課長 三富 応樹
ネウボラ課長 武田 珠美
保育センター所長 沢田 潤子
【欠席者】 教育支援センター長 隅田 浩文
【事務局】 子ども家庭支援課
堀江課長補佐、富澤副主幹、渡邊統括主査、中澤主査
奥村主事、日野保健師

【議 事】

1. 児童発達支援センターについて

(1) 河西委員説明（資料1）

- ・やまぼうしにおいて、求められているものを整理し、中核的機能としての支援イメージ図を作成した。これから中核的機能として、研修支援、こども・家族への入口支援、支援力の向上・受入強化をしていく。
- ・地域コーディネーター常勤2名採用予定で、地域コーディネーターが計画相談も一部兼務する。
- ・地域生活支援センターは、計画相談だけでなく、委託による一般相談も含めたセンターとして設立したい。

(2) 質問・意見等

勝又会長

すこやかかわこうおよこサポートクリニックとしては、やまぼうしとどう連携していくかが課題だった。現在、埼玉病院の先生方が来ていただいて、一人あたり20分から30分程度かけて対応している。丁寧で良いが、需要に対して、供給が追いつかない状況。先生方の負担も考慮し、療育的な部分はやまぼうしと連携したい。早期発見の考え方がやまぼうしの職員と合っていると感じたため、役割分担をして、上手く機能させていきたい。

平川委員

今の段階で、どのような支援メニューを検討しているか。

河西委員

すこやかかわこうとの連携と、ネウボラ課との専門的な取組を考えている。時系列的にはまず保育所等訪問支援、計画相談の増員、発達相談窓口を4月の段階でやっていきたい。

平川委員

市内で発達に不安をもつ家庭に対し、やまぼうしが相談窓口となるということによいか。相談後の流れはどうか。

河西委員

法人内で検討し、法人がバックアップして、対応していく。相談内容により、ネウボラ課や子ども家庭支援課等につないだり、やまぼうしに入れられたらいいなとイメージしている。

沢田委員

チャレンジド保育の審査会議に、支援の専門家として、やまぼうしも参加可能か。

河西委員

力をいれていきたいと思っているため、参加したい。

事務局（堀江課長補佐）

資料1-2のマップをホームページに掲載して市民へ周知したい。後でも構わないので、ご意見があればお願いしたい。

平川委員

資料1-2裏面の、療育までの流れの部分にやまぼうしを入れないといけないと思う。どのようにつながって流れていくか、分かるようにしていきたい。専門医療機関の上にやまぼうしを記載していいか。

河西委員

入れていいと考える。発達には様々な相談があり、内容によって流れをどうするか、バージョンアップしていくか、等も考えていくといいと思う。

2. 母子保健と発達支援の体系（就学前まで）について

(1) 武田委員説明（資料2）

- ・ネウボラ課の発達支援の体制を示したもの。
- ・1か月健診は、令和6年度中に実施予定で、現在スキーム調整中。
- ・2～4か月児発育発達相談は、すこやかかわこうおやこサポートクリニックの協力を得て実施。毎月第4金曜実施、多ければ第3金曜も実施。
- ・1歳6か月後のなかよし相談は発達支援を視野に入れた関わりが強い。

- ・ 2～4 か月児発育発達相談、こんにちは赤ちゃん訪問、乳児相談は、発達支援という切り口より、疾病や子育て環境の問題、育児不安等に対するような相談。
- ・ なかよし相談は必要に応じて心理相談、発達検査につなげ、より支援が必要ななら小児神経科医のすすすく相談へ。すすすく相談で早期療育の助言を得た場合は児童発達支援へつなげる。
- ・ 5歳児健診は令和6年度4月から実施。発達支援が必要なこどもは、心理相談、児童発達支援、ひまわり教室等へつなげる。ひまわり教室から児童発達支援につながるこどももいる。

(2) 沢田委員説明（ひまわり教室について）

- ・ 次も楽しみにしている、と通っているこどもたちの声を聴いている。

(3) 質問・意見等

勝又会長

5歳児健診の具体的なデータが知りたい。先の話だが、小学校と連携して、小学校に入ったときに変わっているかどうか、5歳児健診の取組が意味があるかどうかを考えられる客観的なデータがあるといい。

武田委員

10月までの実績について、健診を7回実施し、延べ407人が受診。すでに療育等に通っている児童がこの内30人、この健診で療育が必要と判断された人数が22人、心理相談につながった人数が94人。他にことばの相談の予約を入れた人数が9人。ひまわり教室に誘った人数は16人、実際にひまわり教室に参加した実人数は5人。

勝又会長

心理相談は医師の見立てか。

武田委員

問診表、課題の到達具合に応じて専門家に見てもらった方がいいと思われる対象を、健診を実施する側からご案内するが、それ以外に保護者の希望の場合もある。

勝又会長

当初は少ないと思っていたが、今の報告である程度スクリーニングできていると考える。次のステップは、小学校に行くまでの取組が、うまく社会に適合できるようなことを伝えていけるかどうか。

沢田委員

5歳児は所属があるこどもが多い。保育園に通っている場合、働いている家庭なので、時間的に余裕がないと療育に通うというのは難しい。

勝又会長

本来であれば就学前に早期の段階で何かできればと思う。

武田委員

親の都合で来られないこともあるが、この健診によって、気づくことができ、その時は親の受容がなかったが、後日お電話をいただいて支援につながることもあり、きっかけづくりにはなっていると考えている。

勝又会長

2か月チェックの対象者は50人以上、その内すこやかかわこうに来院する人数は6月7名、7月14名、8月13名、9月9名、10月9名。産まれた時点のリスク、発育についてはあまり問題にならないが、授乳の問題がある。そこを指導し、赤ちゃんの扱いを覚える機会となり、起動が修正されて発育が良くなる。これを赤ちゃん訪問でどれくらいやってくれるかどうか。自分の病院では2か月予防接種で授乳関係をチェックする。9、10月は24名中、授乳問題は12名。スタッフが丁寧に指導して軌道修正し、発育が頭打ちになる子はいなかった。うまく指導してあげると母の心配がなくなり、上手に飲ませられるようになり、発育もよくなる。その後も丁寧に見ていこうという意識にもつながる。親がこどもに対してどうやって取り組んでもらえるか、親になるスタートを重視している。赤ちゃん訪問でもやってくれるといい。

3. 既存の資源を活用した発達支援について（資料3）

（1）事務局（日野保健師）説明（資料3）

- ・療育の必要性を指摘されてから利用できるまでは数か月かかる。また、療育まではいれないが、子どもの発達について心配に感じている親もいる。そこで、子どもの発達を促したり、親が子どもにうまく関わられるようになって、親と子がともに成長していけるような、既存の資源で活用できるものはあるか、また、家庭や身近な所でできる工夫はあるか、意見をいただきたい。

（2）質問・意見等

武田委員

心理相談、すくすく相談、ことばの相談がある。保護者に助言をして、保護者が家庭で実践する、という形でやっている。

勝又会長

母の負担をなくす、というのは問題の解決にはならないのでは。親が親にならないとこどもは立派に育たないと思っている。親の学びを一步一步進めていき、こどもが成長する。親がしっかりみていく、という認識を皆さんでもって、やまぼうしの協力を得て、支援の形を作っていければ。

スウェーデンは20年前から小学生は教科書なしでデジタル教材を中心にやっていた。その結果学力が低下し、教科書に戻したが、日本は逆をいっている。字を書いたり、五感

や経験で学ぶことが大事。

沢田委員

既存の資源として、保育施設で発達が気になるお子さんの関わり方、研修、巡回相談支援事業がある。就学に向けた保育所での取組については、やまぼうしや教育支援センターの力を借りていければ。

河西委員

保育所等の支援もやっていかなければと思っている。また、親の会等、当事者自身の経験の中で支援していく体制が来年以降できたらと思う。

平川委員

施設や相談につながっていない間、母の不安をどう払拭できるか。家にある玩具、公園や子育て世代包括支援センターにある遊具の中で、家でも手触りや刺激等を経験できるような、発達に効果的な遊び方を保護者に教えられたらいい。

河西委員

理学療法士、作業療法士が道具を使って体幹を鍛えたり、目標をもって取組んでいる。例えば児童センターにも自分の施設以上のものがたくさんある。そういうところに専門的な方を呼んで、技術を提供し、家で実践してもらい、というのもいいと思った。

平川委員

やまぼうしがセンター機能として、児童センターや児童館等とコラボし、やまぼうしの専門家が母親に対して講座を開くこと等は検討できるか。

河西委員

検討はできる。

4. その他

(1) 事務局（日野保健師）

- ・次回の協議会は、医療的ケア児等支援協議会との合同開催、日程は2月5日（水）午前予定。
- ・マップは今年度中にホームページにアップしたいと考えているため、各委員に内容の確認をいただきたい。